

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	静岡大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シズオカダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	中部地方(愛知県を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップの理論と実践
	学部・研究科等名	学生支援センター
	担当教職員名・役職	宇賀田 栄次・准教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	9
	受入企業等数	7
	受入企業等名	藍澤証券株式会社(東京都・静岡市葵区)、株式会社金谷タクシー(島田市)、株式会社CSA不動産(静岡市葵区)、杉本農園(焼津市)、フードカルチャー・ルネサンス株式会社(三島市)、株式会社マルヒデ岩崎製茶(静岡市葵区)、本橋テープ株式会社(榛原郡吉田町)
	インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業側から課題を提示される場合もあるが、体験を通じて企業の知的資本を明らかにすることを学生の共通課題としている。企業側からの課題例としては、「高校生の引率で訪れた先生方への島田市観光ルートの開発」「ブランド米の販売戦略立てと営業活動」「より多くの農学部生が就農するには」「細幅テープを使った新商品提案」などがある。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		1.当該インターンシップは教養教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		2年次～3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		「インターンシップの理論と実践」(学際科目 2年次以上 前期集中2単位)として開講している。前期授業期間に8回の授業と個人面談(事前)、夏季休業期間に30時間程度のインターンシップ(就業体験)を行い、個人面談(事後)を経て、成果発表会を行っている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	インターンシップの政策的変遷、企業の採用活動との結びつき、キャリア教育との連携背景、企業研究に向けたマーケティング理論、企業における知的資本などについて授業を行っている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	

③	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、受入担当者へメールまたは電話し、進捗やトラブルの有無について確認している。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習は調べ学習によるレポート、講義(反転授業)、個人面談で構成する。調べ学習では「コミュニケーション」などのテーマを文献で調査、講義ではその内容をもとにグループ討議を進める。講義ではインターンシップの政策的変遷や採用活動との結びつきの現状を踏まえた上での教育的効果を理解し、企業の知的資本や企業研究に向けたマーケティング理論などを学ぶ。個人面談では体験先の希望調査および目標立てを行う。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中は、毎日日報に記入し日々の体験を振り返るとともに、可能な範囲で指導役担当者からのフィードバックをもらう。事後は、目標の達成度合い、テーマに対する再定義について個人面談を通して確認するとともに、インターンシップ参加による気づき、自身の変化について言語化する。面談を踏まえ発表資料(パワーポイント スライド10枚程度)を作成し、履修者および企業担当者参加による成果発表会を行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中に、企業担当者へメールまたは電話し、進捗やトラブルの有無について確認している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ルーブリック)を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	独自の「実習評価シートA(取組姿勢評価)」について事前に自己評価したものと、事後に企業側から評価されたものを比較考察を行っている。また、インターンシップでの学びをパワーポイント資料にまとめ、気づきや自身の変化、インターンシップで取り組む「目に見えない価値(知的資本)」への理解度についてルーブリックを示し、学修成果の達成度を学生と共有している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実習期間17日間(うちインターンシップ実施期間5日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	調べ学習(1日)事前学習講義(8日)、個人面談(事前と事後各1日)、インターンシップ(原則として5日間以上)、成果発表会(1日)の計17日となるが、2単位の授業設計上、講義60時間と実習30時間の計90時間として実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業には、「指導役となる既存社員の育成」「緊急性は低いが、重要性は高い業務の遂行」「業務内容の深い理解」「地域における企業の関係性」などのメリットを共有した上で学生のマッチングを行っている。また、事前学習での授業、成果発表会には一部の企業担当者を招き企業理解を図るとともに率直な評価についてフィードバックしている。課題解決テーマのインターンシップではPDCAをまわすプログラムを企業と協働開発している。

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	静岡大学学務情報システム シラバス検索 <a href="http://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on">http://syllabus.shizuoka.ac.jp/ext_syllabus/syllabusSearchDirect.do?nologin=on</a>
問い合わせ先	大学等名	静岡大学
	担当部署名	学生支援センター
	担当者役職名	准教授
	担当者氏名	宇賀田 栄次
	電話番号	054-238-4985
	メールアドレス	ugata.eiji@shizuoka.ac.jp